

富士南麓・東臼塚南溶岩流でスパッター樹型を発見(2019. 4. 9)

静岡森林管理署殿に入林許可を得て東臼塚南溶岩流上流部の樹型調査を行った折に、富士山溶岩流で今まで見てきたものとは少し違った樹型が会員の畑中将により発見された。クラスト(殻)が横縞をなした縦樹型である。割れ目噴火口に対面しており, 周囲にアグルチネート(溶岩のしぶきであるスパッター同士が熱いうちに溶結したもの)も確認できたので, スパッターによってできた樹型(スパッター樹型)と推測した。割れ目噴火口側は溶岩流によって流されたか爆発的噴火により飛ばされたかして欠損したと見られる。写真を以下に示す。同じ東臼塚南溶岩流にある溶岩樹型の内面の溶岩は溶岩流が固化したもので内表面がすべすべしており明らかな差がみられる。



写真1 スパッター樹型の外見 (撮影:畑中将)

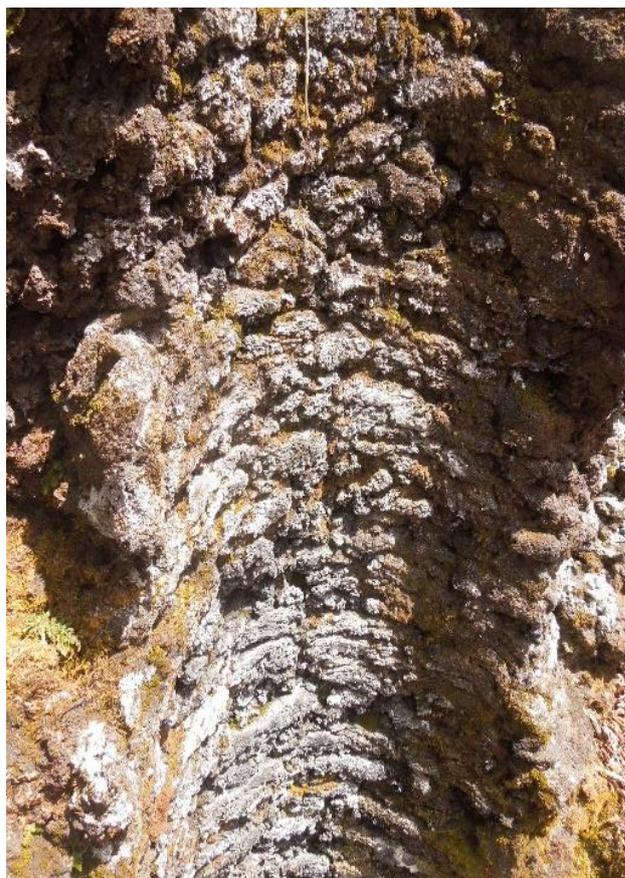


写真3 スパッター樹型の内面 (撮影:本多力)



写真2 同じ東臼塚南溶岩流の通常の溶岩樹型の内面 (撮影:本多力)